

## 伊達市環境放射線モニタリング10年間の記録発刊にあたって

特定非営利活動法人 環境ワーキンググループ伊達  
副理事長 滝澤 由一

### 巨星墜つ

平成23年3月11日、あの忌まわしい東日本大震災と、それに伴う原発事故。我が故郷伊達市にも、大地震により大被害を蒙り、さらには原発事故により大きな不安と混乱を引き起こしました。そんな中で伊達市はいち早く当時の仁志田市長の陣頭指揮のもと、市民の安心安全のために市内各地の放射線量測定が速やかに開始されました。

我々環境ワーキンググループも独自に市内各地の放射線量測定を始めていた矢先、伊達市で進めてきた市内19ヶ所の線量測定を委託され、平成23年7月16日より、令和3年3月31日に至るまで、そして委託業務が終了後は今年4月1日より7月16日まで独自測定を続け、満10年毎日休むことなく線量測定を続けてまいりました。

この10年間、雨の日も風の日も雪の日も嵐の日もありました。春の桜、秋の紅葉など、この地域の美しい自然に心和まされる日もありました。

ここに、こうして10年間のご報告ができますことは、我がワーキンググループ唯一の専門知識を持つ菅野理事長のあたたかなご指導と叱咤激励に、理事長と各メンバーが心を一つにして頑張ってきた成果であると確信しております。

そして、菅野理事長と共にメンバー全員心から喜びあった「測定満10年目の7月16日」、その2週間後に、私達メンバーの理論的、精神的な大黒柱であった菅野理事長は、不慮の事故により旅立たれました。人の世の無常と命の儚さを感じざるを得ません。

まさに、『巨星墜つ。』であります。

10年間に亘りまして活動を続けてくることが出来たのも、ひとえに伊達市をはじめとした関係機関の皆様方からのご支援、ご協力があつた賜物であると感謝申し上げます。そして、10年間の活動の集大成としてここに「伊達市環境放射線モニタリング10年間の記録」を作り上げた会員の活動に誇りを感じます。

2度と原発事故の無いことを念じながら、この報告書が後世に役立つことを願っております。多くの皆様にご一読をいただければ幸甚に存じます。

ここに謹んで、「伊達市環境放射線モニタリング10年間の記録」を菅野理事長の御霊と共に発刊のご報告と致します。

